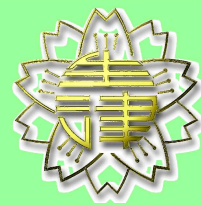


まごころこめて磨き合う なまづっこ



「なかまと まごころこめて すすんで やりぬく子」
～学び磨き・こころ磨き・健康磨き～

2023.11.30 発行

「コミュニケーション力の育成」

11月22日(水)に英語の研究発表会を開催しました。生津小学校は小学校における英語教育の研究を続けて30年目となります。今年度、研究のテーマを「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」として取り組んでいます。この日は瑞穂市内外から130名ほどの教育関係の方々がおみえになり、子どもたちの楽しく英語でやり取りする様子や、自分の考えや気持ちを相手に伝えるように工夫して話す様子を見ていただきました。

授業に取り組む児童の姿を参観いただいた先生方から、子どもたちへの称賛や励まし、そしてこれからさらに努力するとよいことなどの感想をいただきました。寄せられたアンケートの一部を紹介します。

子どもたちが会話を楽しそうにしている様子が印象的でした。また、音楽が流れると自然と歌を英語で口ずさむところからも英語が好きなのだと感じました。「楽しく会話できる」ということは、頭の中にたくさんの言語材料があって、英語で話すことに自信があるからなのだと思います。一貫した積み上げされた力の現れだと感じました。ジェスチャーや表情も豊かに会話できる「さすが生津小の子どもたち」と思わずにはいられませんでした。(小学校教員)

英語を使って対話しようとする意欲、対話することを楽しんでいるように思いました。参観していてもすごく楽しかったです。つまずきがあっても、英語で話しきろうとする姿、仲間に尋ねる姿、自ら「Help me.」と助けを求める姿が多くみられ、学習への粘り強さを感じました。リスニングしたことをメモし、頭の中で組み立て、自分の考えや思いを伝える力を育まれていることを実感しました。(中学校教員)

長年にわたって英語の研究をしてきたことがよくわかる子どもたちの姿で感心しました。教材や教室環境、学校環境などにも気が配られており、こうしたことが子どもたちの姿につながっているのだと感じました。

また、教師の働きかけに素直に応える子どもたちの姿をみて、日頃から子どもと先生の関係づくりの積み上げを強く感じました。(市外教育委員会)

「コミュニケーション能力の育成は対話から」とよく言われます。『対話』とは相手の話をよく聞くことが前提で、内容を聞き取り適切に返答する力です。饒舌に話すこととは別のものです。相手が何を求めているのか把握し、必要とされていることを返していくことが大切になります。

言語は論理的思考やコミュニケーション、感性・情緒の基盤で、各教科の言語活動の充実が各教科を貫く重要な視点です。未来を生きる子どもたちに、「自ら考え、表現する力や相手と進んで関わろうとする力、さらに自分の思いを表現したときの充実感や達成感を味わわせることが大切と考え、一人一人の特性を大切にしながら、英語だけでなく、表現すること、コミュニケーション力の育成に力を入れています。教室で、集会で、みんなの前で、自分の意見を伝える機会や、調べたことを訴える(原稿を読むのではなく、メモをもとに語る)機会なども大切にしています。

これからも英語をはじめ、様々な学習に楽しんで取り組めるよう、子どもたちの主体性を大切にしながら授業の改善を図っていきたいと思います。

